広報 松之山
第13号
発行所
松之山町役場
電話（松之山）110・111番
印刷所
中央印刷所

【知事選挙特輯】

一服したら投票へ

―松之山町選管推奨標語―

投票総数五千票

違反はいつも男性に、正しい政治理念を

開票は12月7日午後8時半

基著、保守の一騎打ちとみられる知事選挙は最後の追い込みにはいっている。既に二回に亘る選挙対策会議を開いて熱心めする候補、表面には出ていないが地方の有力者と結んでゴッソリ票を掴もうとする幾徐本位の候補、或は泡沫票にあぐらをかく候補など、しかし選挙戦はどちらかといえば第吹けど踊らずという低調な選挙のようだ。

町選管では既に神宮選挙人名簿の調整、町内十一の投票箱の整備も終り投票日をまつばかりである。有効投票五千百票、開票は当日午後八時半から町役場で行われるが、十時頃には確定する見込である。

大見選管委員長

大見選挙管理委員長は若い方々が出様してお年寄りだけになるとどうしても関心がうすれ投票が多くなりがちだが、尊い票をムダにすることのないようお年寄りや、留守居の方々にとくにお願いしたい。

先日選挙の話し合いの際女の方から「いつも駄人は選挙に無関心だといわれるが、しかし選挙違反をやるのはいつも男ばかりだ。もっと男の方々から正しい選挙をやるように努めてほしい」という発言があった。私もまったくともなご意見だと思います。

何といっても政治に対する皆さんの正しい理解が基礎となるものです。一層のご協力を切望しています。

選挙違反はないか

【田辺】　全国の公明選挙推進期間は、選挙法の遵守、とくにきこう応、買収の「追放」を目標としているのです。

【A】　棄権者がだんだん多く出る傾向はどういうことか、という疑問も出されていました。

【A】　棄権者がだいぶ出られましたが、不在者投票の方はどうですか。

【田辺】　十一月二十五現在で投票者百七十六人ですが、棄権者からの投票はまだ五パーセントです。

【A】　ポスターその他事前運動についての違反はどうですか。

【田辺】　規定外のポスターや外に著書などによるものがみられますが、これに明らかな違反ですね。

代理投票は正しく

【A】　棄権するのは代理投票でなく、ひどいのになるとオバーさんを家閉まだしていて、その票を自分にくれという方がある。

【田辺】　七十歳寄りに字を書いて下さいという方が無理かもしれないが、やはり、選挙は厳格にやるべきと思う。海上の孤島でいいにくいが……。

【田辺】　事務従事者が不合格になって書くようにしてほしい。

【B】　誰が投票するか全くわからない年寄りはどうしますか。牛の人が氏名欄に記入を頼まれたりするのは違反になりませんか。

【田辺】　そういう場合は白票とすべきではないかな。

【田辺】　紙に書いて渡すのは違反になりますから、それもいいでしょうね。

【B】　脅迫で九十三才のオバアさんが、今回は記憶に、どうしても投票したいと張り切っている話しを聞いた。

戦前の選挙

【D】　昔と今の選挙ではどうですか。

【E】　昔は部落でも財産のある人だけですから何人も行かなかったし、投票所が一ケ所でした。今党の候補は何かやっても無駄だという、公然と現金をくれたり、今から見たらいい加減なもんじゃないかな。

戦後は二十二年四月五日、会県一区による衆議院選挙が最初で、それから五日おきに衆議院という、みんなが忙しく手伝う投票したことがありました。

立会演説がすくない

【田辺】　県議の場合、市であれば一名出せるというのは実際ムジュンしていると思う。

立会演説をもっと増やしたらどうか。制限は六十回ですが、実際には四十回位しかやっていない。

【D】　毎回投票時間きりぎりにくる人はないですね。

【B】　脅迫でオバアさんが、今回は記憶に、どうしても投票したいと張り切っている話しを聞いた。

【A】　松之山で、そういう人が二、三人ありましたが最近なくなりました。

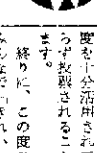
【D】　Eさん、大荒戸

写真は投票日を待つ町選管本部

知事選挙に当り

松之山の皆様へ

新潟県選挙管理委員会
上越地方選挙長　大竹孝吉



知事選挙は、県民の総意で選ばれた知事が県政の最高責任者を決める極めて重要な選挙です。

このように大切な選挙ですから、この選挙に当って完ぺきに望まれることは選挙が「きれい」に行われることです。きれいな選挙とは選挙運動等が誠実に法に決められた規定どおりに正々堂々と行われるということ、投票する選挙人が投票するに当って、他の人から指図されることなく自分の意志に従って自由に候補者を選ぶということです。

選挙は、選挙人のすべてが投票してはじめてその年間の新潟県政の最高責任者を決める極めて重要な選挙です。

知事を選ぶということは、投票日の十二月七日は、県民の権利であること、平日（木曜日）ですので、多くの方々の深い御理解を得ることになります。

第二には、選挙人のすべてが投票することについて特に上越地方の皆様にお願いしたいことです。

知事選挙は、投票日の十二月七日は、県民の権利であること、平日（木曜日）ですので、多くの方々の深い御理解を得ることになります。そこで投票時間の行使を自らすることは勿論ですが、それとともに有権者の人達が投票することに進んで参加することについて事業主とか、会社、工場、官公庁等の責任者に当っての協力をお願いしたいものと思います。

次には、この度の選挙の時期がたまたま出稼ぎの準備期に当っておりますので、出稼ぎ者の方々の投票日の当日投票所へ行って投票することのできない人達のために「不在者投票」といって、早退を認めるとか、或は勤務時間中の投票を認めるとかという温い御理解をお願いしたいものと思います。

座談会

選挙こぼれ話

有権者と投票率

投票区とその範囲	35.9.15現在有権者	34.4.23知事選挙投票率
① 松之山、湯口、荒瀬、新山、湯山	940人	89.43
② 小谷、水梨	441	90.95
③ 大荒戸	312	93.38
④ 上川口、下川口	561	87.33
⑤ 鳥本、鳥越、真	1,334	90.27
⑥ 中尾	269	—
⑦ 貝川、上鳥、下鳥	507	93.31
⑧ 竹ノ子平、長野、新倉、東山	324	86.01
⑨ 墓倉	225	95.59
⑩ 浦田本村区域内部落	374	89.65
⑪ 中倉山、羽黒山、月潟坂中	353	90.42
合計	5,845	88.55

前回の知事選挙結果

(34.4.23)

	北村一男	鈴木吉治郎	無効
松之山町	3.462	1.621	279
新潟県	108.550	79.143	9.136

助産料が改訂されます

1.診察料	初診1回	金	200円
	再診1回	金	100円
1.分娩取扱料		金	3.000円
1.沐浴	1回	金	200円
1.尿料	1回	金	50円
1.各種証明書料	1通	金	50円
1.往診料	4粁	金	100円

1.双胎の場合5割増のこと
1.夜間の往診又は暴風雨雪の場合10割増増加することを得る

〔二頁へ続く〕

三万四千俵

昭和三十六年産米

反面予約補正も四百九十俵

昭和三十六年産米は十一万九千三七俵、坂中五戸三の規模などについて研究を月十日現在で三万四千百三二俵、脱出一戸四俵、万之十二俵が出荷され、昨年の第一万三俵、黒倉湯口二四同期に比べて二千四百俵多俵以上日浦出村い。

各農協別は松之山一二、七〇三俵、松里四、六〇九俵、湯田一二、六九一俵である。反面いもち、倒伏などで予約を補正する農家一一二戸四九〇俵が出ており作況も個々には甚しい不均衡を示している。

部落別補正数はつぎのとおりである。

松之山五戸二三俵、兎口五戸二〇俵、光明二戸三俵、水梨一五戸六五俵、小谷四戸一六俵、大荒戸四戸二七俵、下川手一戸三俵、上川手四戸一一俵、湯山四戸八俵、湯本六戸二九俵、天水島六戸一九俵、天水越一九戸六五俵、中尾三戸一〇俵、中尾一戸一八俵、坪野四戸九俵、赤倉二戸二一俵、以上四松之山村

藤原一戸二俵、曽根三戸九俵、湯之島三戸二一俵、月俵、湯本三戸三俵、上川

中学統合校舎の問題

十一月四日開催された町教育委員会では統合中学校

部落探訪

伝説と長寿のナゾを秘める里

―中尾―

出合橋を渡り約二十分小ん（四八才）は語り、つぎのぼりのカーブを五つほどすぎると中尾である。世帯数八六、人口四八五人、松之山町七番目の大部落である。

延暦の昔中納言大伴家持が居住しこれにまつわる伝説「松山踏」は日本の二大伝説の一つとして広く知られこの部落を象徴している。

「そうですね、総会は年四回位でしょうか、今年は昨夜三回目の総会でした」

この村源の部落費は平均二〇%。資産三〇%、所得五〇%の基準で賦課され年四回に徴収される。

支出予算書の内容の主なものは、土木八〇（単位千円）消防二二〇、学校後援費五〇、健康維持一五、番組斡旋費一五、観光五、書年、婦人会助成五、公民館補修五〇、諸手当四〇と

なっている。

これらの予算や毎年の決算に立派に印刷製本されて各戸に配布されるなど部落行政の明朗化に好き嗣いた配慮がなされている。

切実な願い町道の二百三十米改修

斎藤さんは更につづけて「時期尚早計の十万円は、全部町道改修費に充てるつもりでいましたが、町当局の了解ができず残念でした。まあ来年はどうしてもあと二三〇米だけ改修してもらいたいと思っています。昨夜も総会で全員一致、このことをきめたわけです」

「何んといっても道ですね盛代部落長の悲願ですよ」

一般会計の八万と併せて考えれば、道路改修にいかに重点をおいているかが伺われるのである。

米作は上々、大豆の産地も今は昔に

鹿戸台風でわずかに減収をまぬがれたものが八戸、作柄はまず上々、十一月十日現在で一、三一八袋を出荷、予約に対して五〇俵も超過した。一九六〇年センサスによると農家一戸当り平均農産物販売額七万六千円（町平均九万八千円）で多いとはいえない。

「ひと頃大豆を二〇俵もとった家もありましたが

人手不足、値段が安かったりで今では自家用がせいぜいです……」

昭和三十年から町の人口は激しい減少型に移っている。中尾部落でも昭和二十五年に二〇才～二九才層の者が七一人であったが昭和三十五年には四六人に減っている。

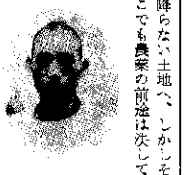
日本一の長寿郷

七〇才以上の者が四〇人もいて長寿率が八・二という高いところは日本中でも珍らしい（町平均五・三）

「別にこれといった特長なし因子もわかりません、こういう不便なところですから人一倍難儀はしているわけですがね、しかし年寄りはみんな達者で病んでいる者は一人もいません……」

最高令者は彦えんの高橋タッさん（九二才）この人は「この十一月になってから頭太一さんの世帯はバタバタと財産を整理して今でも達者で馬鋼いもする舞岡へ転出してゆきました。なんでも百姓だという話ですが……」

相沢保雄氏は「中尾は疾病率も低いし、乳児の発育も比較的良好です。家庭訪問をしてみても、給湯な感



明るくはないだろう。

降らない土地へ、しかしそこでも農業の前途は決してしじゃうけます。薬品的にも蜘蛛行き届いた印象です。しかしその長寿の原因は何んとも言えませんね」という。

その原因は正確に分ってはいないようなようなような